



JHFレポート

10月号

(社)日本ハンググライディング連盟 発行

1998年

補助動力付パラグライディング日本選手権を群馬で開催

10月24日(土)・25日(日)の2日間、群馬県新田郡尾島町の群馬 MPG スクールエリアで、1998年度補助動力付パラグライディング日本選手権を開催します。

補助動力付パラグライディング(MPG)の日本選手権は、これが2回目。第1回の昨年は、19名の選手が参加し、村田福司さんが、初代日本選手権者となりました。今年は、誰がどんな飛びで「日本一」の座につくのでしょうか。皆さん、ぜひ観戦&応援にお出かけください。また、参加してみたいという方は、今すぐJHFの大会事務局に申し込みを。参加資格等は以下のとおりです。

参加資格

日本国籍を有する(日本以外の国籍の人もオープン参加可)

JAA フライヤー登録が有効である。
PG 補助動力 NP 技能証以上を有する。
無線従事者免許証を有する(第4級アマチュア無線以上)
下記のいずれかの推薦またはシード権を有する。
シード 前回日本選手権1~10位の選手)、各都道府県連盟の推薦。
都道府県連盟に所属していないフライヤーの場合は、特例(第3回までの特別規則)としてJHFの推薦により参加可。
オープン参加を希望する外国籍のフライヤーの場合は、大会実行委員長の推薦。
参加定員:原則として50名
参加費:20,000円
参加申し込み
所定の参加申し込み書に必要事項を記入

し、捺印のうえ、参加費を添えて、現金書留で下記に送付を。

〒105-0004 東京都港区新橋2-5-6 大村ビル4F (社)日本ハンググライディング連盟 MPG日本選手権大会事務局 (TEL.03-3592-2651)

申し込み用紙・大会要項は、JHF事務局または各都道府県連盟から取り寄せてください。

申し込み締切は、1998年10月9日(金)、当日の消印有効です。

競技内容:補助動力による上昇、移動、高度維持、補助動力をカットした後のグライディングが主体。フルパワーによるスラローム・ローパス等や、燃費を競うことはしません。

教員研修検定会、今年もハング・パラ合同で

1998年度のJHF教員研修検定会を、下記の日程で行います。昨年、ハンググライディングとパラグライディングを区別せず、両者の相互関係を再認識しようと、初めて合同開催しましたが、今年も同様です。

飛行実技検定、教習実技検定、学科検定のすべてに合格すると、晴れてJHF教員に。今回から、2年度にまたがって三つの検定に合格すればいいことになったので、緊張で実力が出せないという悩む受験者にとって、少しは気が楽なのでは...

今回の受験資格は、1997年8月31日以前に、助教員技能証を取得した人。前もって各都道府県連盟にお知らせしたとおり、参加申し込みは8月末で締め切りました。
飛行実技検定会
ハンググライディング
10月6日(火)・7日(水)茨城県新治こまちパラグライディング
10月6日(火)・7日(水)茨城県新治こまち
10月13日(火)・14日(水)山形県十分一山
10月20日(火)・21日(水)福岡県米の山

予備日
10月27日(火)・28日(水)茨城県ほか
学科・教習実技研修検定会
ハング・パラグライディング
12月1日(火)~3日(木)東京都渋谷区、代々木国立オリンピック研修センター
受験者の皆さん、落ち着いて実力を発揮し、教員証を手に入れてください。

ドイツ選手が女子HG世界チャンピオンに

8月10日から23日までハンガリーで開催された、第6回女子ハンググライディング世界選手権は、Schwiegershausen選手(ドイツ)の優勝で幕を閉じました。

JHFは、日本チームとして、チームリーダー大門浩二さんと、パイロット谷古宇端子さんを派遣。谷古宇選手は21位でした。詳しい報告は、次号で。

上位選手は以下のとおり。
1位 Corinna Schwiegershausen ドイツ 2612点
2位 Neva Bull オーストラリア 2576点
3位 Natalia Khamlova ロシア 2540点
4位 Niki Hamilton イギリス 2504点
5位 Monique Werner ドイツ 2318点
6位 Kari Castle アメリカ 2220点

PG日本選手権、残念ながら不成立

8月15日から23日まで、長野県上高井郡高山村の山田温泉スキー場で開催の、1998年度パラグライディング日本選手権は、気象条件に恵まれず、1フライトのみ成立。残念ながら、日本選手権としては不成立になってしまいました。若手県での昨年度日本選手権も、気象条件不良のため不成立。開催時期は、当然そのエリアの条件のいい

シーズンなのですが、異常気象にはなす術もありません。来年度こそ、好条件の下で競技できますように。
なお、来年度の開催地は、まだ立候補がなく未定です。
日本選手権の様子は、選手でありJHF競技委員である田中美由喜さんにレポートしてもらいました。4ページをどうぞ。

空のかお

その13



佐藤 稔(さとむのる)さん

最初にトライしたのはハンググライディング。その後パラグライディングに転向し、毎週のように空を翔っている。決して競技指向というわけではないが、楽しんで大会にも参加し、時には優勝も。宴会では率先して仲間を盛り上げるすてきな空の顔である。

委員会の動き

PG 競技委員会 岡 良樹

8月15日から8月23日の日程で長野県高山村で開催されたPG日本選手権には北は青森、南は鹿児島から総勢87名(プラス、スペインからオープン参加の1名)が参加した。詳しい内容は報告記事をご覧ください。残念ながら異常気象にみまわれ1本のみで、日本選手権としては不成立となってしまいました。おかげ(?)で公式審判員が活躍する場面もなく(これ自体は望ましいことですが)、また、ひどいけが人もなく(捻挫1名)無事に終了できたことを喜び、大会期間中に選手達から得た情報を次回の委員会に反映できるという収穫があったことはせめてもの慰めです。来年の日本選手権に期待したいのですが、この原稿を書いている時点では開催の立候補は出ておらず、どこか開催して頂けるところは無いかと思案・打診中です。

教習検定委員会 委員長 島野 広幸

前回の原稿から今回の締切りまでの間に

委員会はありませんでした。委員も全員が業界人なので暑さのなか真っ黒になって本業に専念していたようです。今年の営業成績はどうだったでしょうか。

さて、予定通りであれば、JHF 教員研修検定会に使用する資料を完成させる時期ですが、少し遅れ気味になっています。急がねば...

8月の末には今年度の受験申込が締め切りとなり、10月には山形・茨城・福岡でJHF 教員の飛行実技検定会を行います。飛行実技では、空中の操作も大切ですが、基本操作を見る意味で平地でのS字スラローム走行も大きな点数配分になっています。簡単にできそうですが、日頃より練習していないとなかなかうまくできません。1年に1回しか行かないので受験者は後悔しないように準備が必要です。

補助動力委員会 委員長 山崎 勇光

今回は、補助動力委員会の一員として活躍して頂いている人物を紹介したいと思います。

BEE IN 宇都宮スポーツ店経営のかたわら補助動力委員会に熱い情熱を注ぎこんでくれる「宇都宮のおとうさん」こと高橋正造さんの紹介です。

前栃木県連理事長でゴルフ、スキーのプロという顔を持ち、カラオケもプロなみでかきせる声の持ち主です。JHFのドアをあけると同時に(すこし薄くなった頭に後光を輝かせながら)タダイマー宇都宮のオートサンデー、と一声、JHF事務室の空気が、いっぺんに明るくなってしまいます。ちょっと難しい問題の会議でも、ほっとした空気がながれます。

第1回補助動力付パラグライディング(MPG)日本選手権では地元の顔として、観光、行政とのコンタクト、器材の設置、スタッフの紹介と大変大きな役目を担って頂きました。第2回目選においても、その実力を十分発揮して頂ける事でしょう。

第2回MPG日選は、10月24日(土)・25日(日)の2日間、群馬県尾島町で開催されます。皆さんの参加をお待ちしています。また、ぜひ応援しに来てください。

事故を考える

送電線に近付くな!!

調子よく上昇できそうな雲に誘われて、ズンズン前に出たものの、期待したほど高度を上げられない。それどころか、下降風帯にはまって、高度はどんどん下がる。さっきまで何百メートルも下であって、気もしなかつた高圧電線が、せり上がってくる。「近付きたくない」と思っていると見れば見るほど、電線が太さを増し、冷や汗がジワワリと.....こんな経験を持つフライヤーは少なくないはずだ。

電線、特に高圧の電気が流れている送電線からは、できるだけ離れて飛びたい。誰もがそう思う。万一、送電線にひっかかったら、感電死する確率が高いし、電気を止めることにでもなれば、多くの人にたいへんな損害を与えてしまうからだ。しかし、ハング・パラグライディングは、刻一刻と変化する自然のなかで楽しむもの。自分の意志どおりにはいかず、最初の例のような状況に追いこまれることもある。

5月28日、群馬県の三峰エリアで発生したパラグライダーの死亡事故が、そうだ。エリアのランディング場に降りる予定だったが、強風に流されて、パイロットが送電線にぶつかってしまった。感電はしなかったものの墜落し、全身を強く打ってパイロットは亡くなった。ハーネスには、送電線にあたった時についたと見られる傷があり、はずみでコンテナがあいたのか、パイロットが自分で開こうとしたのか定かではないが、緊急用パラシュートが出ていたという。

ほんの少し高度が高ければ、なんとか送

電線を飛び越すことができたかもしれない。ほんの少し風が弱くなっていたら、もっと手前に緊急着陸できたかもしれない。あの時、こうだったら、ああしていれば.....と考えても、亡くなった人は帰ってこない。

しかし、この記事を読んだあなたには、ああしたら事故は防げた、こうすればダメージを小さくできたと、大いに考えてほしい。

*

テイクオフポイントから送電線の見えないエリアは皆無じゃないか、そう思うほどあちらこちらに送電線はある。それだけ広い地域に電気が運ばれ、人々は快適な生活ができるわけだが、私たちの多くは電気のことをほとんど知らない。そこで、東京電力株式会社工務部送電グループの柳本等さんに、送電について教えていただいた。

まず「送電線」というのは、どのぐらい高圧の電流が通っているのですか。

一般的には、2万ボルトから、なかには50万ボルトという、とても電圧の高いものもあります。

高圧線に接触しなくても、近付いただけで感電することがあると聞きましたか。

接近しただけで感電する場合もあります。送電線は、一般の家庭の電線のようにビニールなどで覆われていません。電線と電線の間や、電線と地面の間は、空気によって絶縁されているのですが、限界距離の範囲に近付くと、空気の絶縁が破れて感

電するのです。もし感電したら、電圧が高いですから、ほとんどの場合助かりません。何メートルまで近付いたら感電するというのは、電圧などによって変わります。高圧になればなるほど、送電線から電気の流れる距離が長くなりますから、それだけ感電する危険域が広がるわけです。

具体的に何メートルぐらいですか。

たとえば、地上で作業しているクレーン車などの場合、6万ボルトの送電線だと4m以内に近付かないように注意していただいております。50万ボルトだと、11m以上離れていないと.....。でも、これは地上に固定されているもの話です。ハンググライダーやパラグライダーで飛んでいる場合は、動いているうえに風の影響も受けやすから、最低100mをめやすに、それ以上送電線に近付かないようにしてください。

逆に、送電線にぶつかっても感電しないこともあるのですか。

鳥が電線にとまるように、たまたま鉄塔と鉄塔の中間で電線にぶらさがったような場合は、感電しないこともあります。これは、鳥が電線にとまっても感電しないのと同じように、鉄塔やほかの電線を通じて電気が流れる道ができないからです。しかし、これは希な状態です。電線と電線の間にもぶつかると、上の線と下の線との間に電気が通るので感電しますし、鉄塔のそばでは、鉄塔を通じて電気が地上に流れるので感電します。

ハンググライダーの骨組は金属です。

パラグライダーに比べて感電しやすいの

日本ハンググライディング安全性委員会 (JHSC) 議事録

日時：1998年7月16日(木) 13:00 ~ 17:00
場所：航空会館6階602会議室
出席委員：阿部郁重、斎藤紀、岡良樹、下山進、小宮國男、松田光平、幸路尚文
委任状：泉秀樹
オブザーバー：渡邊敏久、鈴木康之
機体登録申請者：有限会社アエロタクト、エコーウインドパレー株式会社
技術部会(型式登録審査)
パラグライダー・新規登録
GinEX式 BOOMERANG M型(合格：PI-624)
GinEX式 BOOMERANG L型(合格：PI-625)
Freex式 SPEAR S型(合格：PI-626)
Freex式 SPEAR M型(合格：PI-627)
Freex式 SPEAR L型(合格：PI-628)
NOVA式 VERTEX 22型(合格：PI-629)
NOVA式 VERTEX 24型(合格：PI-630)
NOVA式 VERTEX 28型(合格：PI-631)
NOVA式 XPERT 23型(合格：PI-632)
NOVA式 XPERT 25型(合格：PI-633)

Swing式 Ventus-S型(合格：PI-634)
Swing式 Ventus-M型(合格：PI-635)
Airwave式 XXX-S型(合格：PI-636)
Airwave式 XXX-M型(合格：PI-637)
Airwave式 XXX-L型(合格：PI-638)
NOVA式 XPERT 21プロトタイプ型(合格：XP-001)
NOVA式 NEXON 20プロトタイプ型(合格：XP-002)
DAE KYO式 EDEL SECTOR TX #S (COMP)プロトタイプ型(合格：XP-003)
DAE KYO式 EDEL SECTOR TX4 #Sプロトタイプ型(合格：XP-004)
Freex式 FX62Mプロトタイプ型(合格：XP-005)
ユーピー式 エスケープ98Sプロトタイプ型(合格：XP-006)
ユーピー式 エスケープ98Mプロトタイプ型(合格：XP-007)
Airwave式 XXX-Mプロトタイプ型(合格：XP-008)
定例委員会
1.改良型パラグライダーの登録について
小宮委員が、市販機に改造を加えた機体

を登録させるための提案を行い、次回の委員会でも内容を検討することになった。
2.事故状況の聴取
5月28日、群馬県三峰エリアで発生したパラグライダーの死亡事故について、状況説明を受けた。

他者を巻き添えにしないために

8月1日、福島県猪苗代エリアでパラグライディングの大会中、高度処理をしていたB級の選手がブレイクゾーン上空に進入。機体をたたんでいたフライヤーと衝突。ちょうどハーネスの硬い部分が頭にあたり、そのフライヤーは頭蓋骨折・外傷性くも膜下出血で亡くなった。

このような事故は、ちょっとした注意不足で、いつでもどこでも起こり得る。フライヤー各人が他者を巻き添えにする危険性を認識し、注意を怠ってはならない。また、練習生は飛行中に周囲が見えてないことが多い。指導者の監督下で飛ぶことを徹底すべきだ。

でしょうか。

当然、金属は電気を流しやすいのですが、人間が危険域に入ってしまうと、ハンググライダーもパラグライダーも、危険性に変わりはありません。

万一、送電線にひっかかって電気を止めたりしたら、たいへんなことになりま

すね。
送電線は、数万軒におよぶ、多数の工場や住宅などに電気を送っています。そのなかには、コンピュータを使っているところがたくさんあるでしょうし、病院など、短時間の停電でも人の生命にかかわるところもあります。送電を止めるということは、社会的にとっても大きな影響を与えてしまうことにもなります。ですから、地図などで送電線の位置を確認して、気象条件が急変して飛行コースが変わっても、危険な範囲に入らないように、それを徹底していただきたいのです。

あつてはならないことですが、もし送電線にひっかかってしまったら、どうすればいいのでしょうか。

万一、宙ぶらりんの状態になってしまったら、消防署や警察とあわせて、まず最寄りの電力会社に連絡してください。電気については、私たち電力会社はプロですから、電気を止めれば社会的影響は大ですが、損害をできるだけ小さくする止め方もあります。他のルートから電気を供給できる場合もあります。緊急時には人命第一ですから、迅速に連絡していただくこと、

これが大事です。それから、仲間が助けようとして鉄塔に登り墜落したり感電したりという、二次災害を避けねばなりません。状況がどうであれ、まず電力会社に連絡をしてください。

その送電線がどの電力会社のものか、すぐわかるといいのですが。

電力会社は、互いに連絡しあうルートを確認していますから、迷わずに最寄りの電力会社に電話してください。事故の場所は「だいたいこのへん」といってもらえば、「それは何号鉄塔だ」とすぐわかります。GPSで位置を確認して連絡してもらうのもいい方法ですが、地名の方が一般的ですね。また、鉄塔の脚部をぐるっと回ってもらうと、送電線の名称がついています。連絡先が書いてある場合もあります。

まず、送電線の位置を知る、そして近付かない。もし風に流されても何とか避ける。万一ひっかかってしまったら、すぐ電力会社に連絡する。電話番号は何番……と、フライヤー各自の頭の中にマニュアルを持っているべきですね。

そのとおりです。自然相手のスポーツですから、思ってもみないことが起こるでしょう。そういった時にどうすればいいか、飛んでいる方ひとりひとりに考えていただきたいのです。また、大会の時などは、事前に連絡をいただければ、競技前に資料を配ったり説明したりできます。目立つように鉄塔の上に旗をつけたりすることも可能です。それから、安易に電気をこちらからあちらにまわすということではできません

が、万一の場合は電気をどう流すか考えておくといった備えができます。しかし情報がなければ、こちらは何もできません。大会主催者には、電力会社に前もって連絡をくださいと、お願いしたいですね。

*

自分は事故を起こさないと考えているフライヤーは、少なくないようだ。しかし、どんなに慎重な人でも、危険性ゼロというのはあり得ない。それを胆に銘じてフライトを楽しんでほしい。また、柳本さんのお話にも出てきたように、二次災害にも注意しよう。外国で起きた事故で、送電線にひっかかった仲間を助けようとして、そのハンググライダーにさわって感電死した例がある。上空のハンググライダーが送電線を切ってしまう、その下にいた他のフライヤーが、垂れ下がってきた電線にあたって感電し亡くなってしまったこともある。注意していても100%安全ということはないが、それでも、どうかご注意を。

*

事故は、さまざまなものを容赦なく奪う。時には生命までも。JHFレポートでは毎号、フライヤー各人が自身の安全について考える材料を掲載していく予定だ。こんなことをとりあげてもらいたいという要望、提言などを、JHF事務局内、広報出版局まで、郵送またはファクスでお送りください。お名前・連絡先の記入をお忘れなく。

また、万一事故が起きてしまったら、忘れず、JHFにご連絡ください。

広報出版局 松田保子

98 年度パラグライディング日本選手権。今年も、毎日良い条件でフライトできる長野県高山村山田温泉スキー場での開催だ。この時期は、毎年雲底2,200m ~ 2,400m。地上の風も非常に穏やかで、日本選手権を開催するには絶好の条件が揃うはずであった。

8月15日には、大会受付と機体検査、開会式、ウエルカムパーティが行われた。

さて、本番の16日から19日までは、季節はずれの梅雨前線が日本列島に居座り、梅雨明けがまだの状態。毎日朝に公式掲示板に出す天気図もなかなか回復傾向がなく、毎日選手は大会へのコンソレーションをどう維持するかが課題であった。毎日の雨の中、オーガナイザーもいかに選手の退屈を紛わせようかと頭を痛める日々だった。時にはテントの中で、焼き肉パーティをしたり、マウンテンバイクを持ってきている選手が多いので、マウンテンバイクのタイムトライアルレースをしたり。

そして、やっと21日に雨が上がりテイクオフでタスクを待つ日がやってきた。が、この所の雨で異常に湿度が高く雲量が多く雲底が低いという悪条件。結局21日、22日ともタスクは成立せず、いよいよ最終日23日を迎えた。この日は朝から久しぶりの青空が広がり、テイクオフの風も1~2mのアゲンスト。これがいつもの高山の夏の空だ。タスクコミッティーが決めたタスクは、グランドー斉スタート。TO-F-B-F-B-F-I-G2。32.8kmのRACE TO GOAL。



選手、役員、応援の人みんなニコニコ。

12:30、選手は一齐にスタート。たったの5分で全員が離陸終了。テイクオフした選手のほとんどが南側に回り込み、ネックとなる中倉山頂をトップアウトしていく。レースを終始引っ張ったのが扇沢選手。そのあとを、蔭山、長島、西ヶ谷と続く。ゴールにあと少しと迫った時に、蔭山が西ヶ谷、長島を見事なアクセルワークで抜き去りトップでゴール。結局11名がゴールし、32.8kmのタスクが成立した。1本のみで成立で残念ながら日本選手権は成立しなかったが、高山のエリアの大きさを感じさせる気持ちの良いタスクで締め切り、今年の日本選手権は終了した。



蔭山選手を囲んで、上位パイロットたち。

- 1位 蔭山 健司 1000点 茨城県
- 2位 長島 信一 999点 埼玉県
- 3位 西ヶ谷一志 997点 埼玉県
- 4位 川地 正孝 917点 神奈川県

- 5位 松原 正幸 912点 埼玉県
- 6位 辻 強 910点 石川県
- 7位 山崎 光洋 855点 長野県
- 8位 大澤 行英 854点 京都府
- 9位 佐藤 哲也 848点 東京都
- 10位 田中美由喜 847点 東京都



選手全員が5分間でテイクオフを終えた。



本当に広々しているテイクオフポイント。

大会開催予定(1998年8月23日現在)

PS: ポイントシステム対象(ポイントシステム対象、公認については申請中を含む。) 参加資格 XC: クロスコントリート P: パイロット証 NP: ノービスパイロット証 B: B級練習生参加可 会員: 都道府県連盟に属する者

区分	大会名	日程	開催地	参加資格	参加費	締切
PG	公認 七ヶ宿カップパラグライダー大会	10/17・18	宮城県七ヶ宿スキー場	P	12,000円	10/9
	SPS 〒989-0247 宮城県白石市八幡町12-12 A-202 TEL.0224-26-1704					
公認	'98 パラグライダーフェスタin OGUNI	10/23 ~ 25	熊本県阿蘇郡小国町	P	10,000円	10/1
	SPS 〒869-2501 熊本県阿蘇郡小国町宮原1927 TEL.0967-46-3200					
公認	尾神岳スカイグランプリ	10/24・25	新潟県尾神岳	P	12,000円	10/15
	PS 〒949-3443 新潟県中頸城郡吉川町下町1126 役場産業課内 TEL.0255-48-2311					
公認	'98 阿波の国 四国三郎PG大会	10/31 ~ 11/3	徳島県四国HGサイト	XC	20,000円	10/16
	PS 〒790-0915 愛媛県松山市松末1-10-29 TEL.089-975-4766					
公認	第14回あぶくま洞オープンカップHG大会	10/24・25	福島県滝根町仙台平	P	6,000円	10/20
	PS 〒960-8061 福島県福島市五月町2-17 TEL.024-522-0922					

スカイスポーツクラブ ウインドバード

今回は、日本の最南端沖縄県、沖縄本島のこれまた最南端にあるわれわれスカイスポーツクラブ・ウインド・バード(S・S・C)を紹介させていただきます。

クラブのフライトエリアは、夏場は、沖縄本島北部に嘉陽(かよう)や天仁屋(てにや)のリッジ・ソアリング中心のエリア、冬場は沖縄本島南部の月代(つきしろ)の沖縄では珍しいサーマル・エリアなどが中心になります。この月代エリアのランチャー台は、我がショップのテラスのすぐ前にあり、これは、クラブ員とショップが費用を出し合い協力し血と汗と涙の結晶でできたランチャー台です。ここから飛んで眼下に中城湾を見渡すのはなんともいえない気分です。

S・S・Cは今から5年前に結成されました。当時のメンバーは12名で、ハング、パラほぼ半々の人数でしたが、今では、圧倒的にパラグライダーの愛好者が多くなっています。また、最近では、モーターパラを楽しむメンバーも増えてきました。現在のメンバーの数は41人で、年齢も60才から

7才までと幅広い年齢層で活動しているクラブです。以前は少なかった女性メンバーも段々と増え始めてきました。男性クラブ員にとってうれしい限りです。

我がクラブの特徴としては、メンバーそれぞれ、記録にこだわるわけでもなく、技量を競いあうわけでもなく、とにかく皆がのんびりと自分のペースでフライトを楽しんでいます。クラブ活動としては、バラ、ハング、モーターパラ等のフライト活動などももちろんですが、他にもクラブ内サークルの『酒味の会』(クラブ員の間では、痛風の会とも言われていますが、バレーボール大会・バーベキューなどを行っており最近かわいい姉妹が入会してくれたおかげで7名《うち痛風患者3名》に増えました。『民謡同行会』(三味線の愛好者が意外に多く結婚式や忘年会で活躍中)『野球部』(キャプテンとしては、試合はあるか、天気がいいと皆が飛んでしまうので練習もできない状態で困っています)などのサークルもあります。

クラブのおもな活動としては、仲里校長

率いるウインド・バード・スクールでの行事、カルチャースクールや最近とくに身障者の方々や家族の体験など非常に多いことなどもありクラブメンバーでお手伝いしています。クラブの年間行事としては、年1回(2月頃)の海外ツアーや沖縄県外や県内(離島)ツアー、クラブ・スクール合同コンペ(年4回)、合同キャンプ(年2回)、餅つき大会、ミニ大会(随時)などを行っており、クラブ広報紙も2ヶ月に一度発行しています。

クラブ員の中にはスクール生と結婚したちゃっかり者も2名ほどいますが、仲里校長や私のような純粋無垢な男もいます。まだまだ楽しいスポーツや遊びがたくさんあります。一度来たたらまた来なくなるそんな楽しいクラブ、ショップです。全国どなたでも入会もできます。1年間を通して飛べる沖縄です。まだ沖縄で飛んでいない全国のフライヤーのみなさん、クラブ員スクール生一同心よりお待ちしております。ぜひ一度沖縄にメンソーレー!

近藤 幸人 記



検定会開催予定(1998年8月23日現在) P:PGパイロット学科 NP:ノービスパイロット学科 HG:HGパイロット学科 XC:クロスカントリー学科

種 類	検 定 日	時 間	開 催 場 所	主 催 ・ 連 絡 先
P	10/3(土)	15:00~17:30	茨城県新治郡新治村 新治村小町の里	新治こまちPGS TEL.0298-62-5355
P	10/10(土)	17:00~18:30	静岡県熱海市 パラフィールド	ヘリグライド(株) TEL.045-680-1866
XC	10/17(土)	18:00~22:00	群馬県利根郡月夜野町	(有)グランボレ TEL.0278-62-1274
NP	10/24(土)	17:00~19:00	岡山県阿哲郡大佐町 SET大佐山講義室	SET大佐山 TEL.0867-98-3400
P	10/24(土)	17:00~18:30	静岡県熱海市 パラフィールド	ヘリグライド(株) TEL.045-680-1866
P・NP・HG・XC・PW	10/25(日)	18:00~20:00	神奈川県横浜市 神奈川県民センター会議室	神奈川県連盟 TEL.0460-3-5391
P・NP・XC	10/25(日)	9:00~12:00	熊本県阿蘇郡 阿蘇ネイチャーランド	阿蘇ネイチャーランド TEL.0967-32-4196
P・NP・HG・XC・PW	11/10(火)	17:00~20:30	神奈川県横浜市 東戸塚地区センター会議室	ヨコハマスカイスポーツ TEL.0460-3-6958
P	11/14(土)	17:00~19:00	岡山県阿哲郡 SET大佐山講義室	SET 大佐山 TEL.0867-98-3400
NP	11/14(土)	17:00~18:30	静岡県熱海市 パラフィールド	ヘリグライド(株) TEL.045-680-1866
XC	11/14(土)	15:00~17:30	茨城県新治郡新治村 新治村小町の里	新治こまちPGS TEL.0298-62-5355
P	11/14(土)	18:00~22:00	群馬県利根郡月夜野町	(有)グランボレ TEL.0278-62-1274
NP・XC	11/28(土)	17:00~18:30	静岡県熱海市 パラフィールド	ヘリグライド(株) TEL.045-680-1866
P・NP・XC	11/29(日)	9:00~12:00	熊本県阿蘇郡 阿蘇ネイチャーランド	阿蘇ネイチャーランド TEL.0967-32-4196
NP	12/12(土)	17:00~18:30	静岡県熱海市 パラフィールド	ヘリグライド(株) TEL.045-680-1866
P・NP・HG・XC・PW	12/19(土)	19:00~21:00	神奈川県横浜市 神奈川県民センター会議室	神奈川県連盟 TEL.0460-3-5391
P・NP・XC	12/20(日)	9:00~12:00	熊本県阿蘇郡 阿蘇ネイチャーランド	阿蘇ネイチャーランド TEL.0967-32-4196
P・NP・HG・XC・PW	12/22(火)	17:00~20:30	神奈川県横浜市 東戸塚地区センター会議室	ヨコハマスカイスポーツ TEL.0460-3-6958
P	12/26(土)	17:00~18:30	静岡県熱海市 パラフィールド	ヘリグライド(株) TEL.045-680-1866

JHFレポートでは、いつもJHFの活動についてお知らせしていますが、正会員である各都道府県連盟の動きは、「県連だより」等で紹介するだけでした。各県連では、連盟ニュースを発行するなどして、それぞれの会員に情報を流しています。でも、県連会員だけでなく、全国に流したいニュースや提案があるはず。そこで、今回から「県連ニュース」のページを設けることにしました。原稿を送ってくれるのは、各県連の広報係(と代理)の皆さんです。

まだ広報係が決まっていない県連もあるようですが、一日も早く47都道府県連盟の情報が揃うようにしたいものです。

北海道ハンググライダー連盟

7月12日(日)、滝川の丸加高原にてPGの無料体験会を開催しました。当初の予定人数75名を大きく上回る135名の参加申し込みがありました。スタッフも3年目で手慣れて、全員が飛行体験できましたが、なかには2年連続参加の婦人もおり、受け皿づくりの必要性を痛感しました。吉野正規



本格的に飛ばたいという人々が多数。大鱈温泉スキー場で体験教室より。

青森県ハンググライダー連盟

岐阜県、和歌山県について、文部省主催の「第3回全国アウトドアスポーツフェア」が青森県で開かれました。フェアの一環として、7月11日(土)・12日(日)に青森市雲谷モヤヒルズで、7月19日(日)・20日(月)に大鱈温泉スキー場で、パラグライダー体験教室を開催。それぞれ50名、71名が参加し、天候にも恵まれて大成功でした。これまでのスポット的体験講習会と違って、今

回は2日間連続の本格的体験教室。そのせいか参加者の反応も強く「ぜひ本格的に飛ばしたい」という人が多数いました。今後の体験講習会のあり方を、根本から再検討する必要を感じ、収穫もたいへん大きかったと思います。古川正司

秋田県ハング・パラグライダー連盟

8月3日(月)～7日(金)の5日間、秋田県の森吉山麓でボーイスカウト日本ジャンボリーが開催されました。世界中から集まったのは、なんと27,000人。その会場で3日間にわたってパラグライダーの体験講習会をさせていただきました。日本はもちろんのこと、世界のPG普及のためと思い、秋田県連盟の総力を挙げて頑張りました。

初日と2日目は風の向きが悪く、なだらかな斜面を駆け上がる方向で、講習生を押し引きしたり。見ている人にパラグライダーは斜面を駆け上がるものだと思われてしまいました。幸い3日目はいい風が吹いて、多くの方々にチョッピリ空の散歩を楽しんでいただけました。

体験者数は延べ1,000人ほど。数年後には、それぞれの地元のスクールに入校することと思います。スタッフのオジサンたちも汗をかきながら、素晴らしい空の体験をした方々の感動と感謝の言葉を聞いて、満



足のようでありました。朝日和博

学連ニュース

大島エリアで中国学連合宿&大会

8月18日から20日まで山口県大島郡橋町で中国学生連盟合宿とあわせハング・パラグライダー大会が開催されました。参加大学は全国におよび、参加人数も80人を越えることができました。大会の開催された嵩山は西と東のどちらの風でもテイクオフできるようになっています。18日はフリーフライト。大会初日の19日は強風がやむ見通しがなくキャンセル。そしてこの日の夜は学生の親睦を深めようとパーティーが開催され、大変な盛り上がりとなりました。20日は朝から北風が大変強く大会は不成立になるのではという不安をもちながらウェイトイング。2時まで待ってももうだめかと思いつつ始めた頃テイクオフから西の風が3メートルと無線が入り大会を決行。大会内容は時間が限られているためターゲットとセットタイムとはなったものの全員が飛ぶことができました。この合宿は決して

よく飛べた合宿とはいえないかもしれませんが、これからの活動、そして夏休みの思いでと一人一人が得たものは大きいと思います。そしてこの合宿に御協力・御協賛いただいた皆様心から感謝いたします。最後に合宿をとおしてずっと私達をみまもってくださった梶原さん・山根さん・石見さん本当にありがとうございました。

SKY DUST 寺嶋敬史

- | | | |
|-----|-------|--------|
| 1位 | 床西 祐司 | 山口大学 |
| 2位 | 御筈 正意 | 大谷大学 |
| 3位 | 森 進太郎 | 福井県立大学 |
| 4位 | 村本 是孝 | 山口大学 |
| 5位 | 稲村 禎彦 | 福井県立大学 |
| 6位 | 江口 恵介 | 熊本大学 |
| 7位 | 安部 裕磁 | 熊本大学 |
| 8位 | 菊地美奈子 | 京都大学 |
| 9位 | 多田 隅実 | 熊本大学 |
| 10位 | 岸本 浩二 | 同志社大学 |



競技内容はJHFのポイントシステム大会、SPS大会に準じ、参加者の都合のいい時に、指定エリアで、設定されているタスクに沿ってフライトします。パイロンを撮影したネガとエリア管理者の証明書を大会事務局に提出すると、順位がつき、総合成績の上位者は表彰され、賞金も出ます。愛知県のフライヤーだけでなく、他県連盟の皆さんも、ぜひご参加ください。

参加資格は、愛知県連盟の会員またはJHF正会員である各都道府県連盟の会員であること。パイロット技能証を持っていること。JAAフライヤー登録が有効であること。参加費は、愛知県連盟の会員は1,000円、他県連盟会員は2,000円。実施予定エリアは、付知、大鹿、高嶺、新城スカイパーク、池田山、三ヶ日、伊吹山、五井山の8ヶ所。競技期間は、1998年7月25日から1999年5月9日まで(予定)

申し込みは、所定の用紙に必要事項を記

入し、連盟の会員証、技能証、フライヤー登録証のコピーをはりつけ、参加費用を添えて、下記に送ってください。

〒470-2101 愛知県知多郡東浦町森岡濁池10-49 エキスコンベ事務局 大間隆彦 愛知県連盟競技委員 大間隆彦

福岡県ハング・パラグライディング連盟
7月5日の日曜日に、HG・PG滑空気象の第一人者である内藤邦裕氏を講師に迎え、福岡県連盟主催の「気象セミナー」が開かれた。梅雨に合わせてこの時期の開催と



なったのに、当日は梅雨明けを思わせる晴天。企画した教習委員会は「参加者が少ないのでは」と心配していたが、予想をはるかに上回り80名を超える参加者が集まった。テーマは「サーマルの基礎」と「夏のフライト」について。実際にフライヤーに役立つ気象学を学ぶことができた。1995年のPG世界選手権と、今年のHG日本選手権で助言をいただいたこともあり、とりわけ北部九州の特徴など、わかりやすく内容の濃いセミナーとなった。参加者は、今までと一味違ったフライトが経験できるのではないだろうか。 越智善治

佐賀県ハング・パラグライディング連盟
7月28日(火)、佐賀空港がよいよ開港し、佐賀県連盟も記念イベントに参加しました。体験講習会には、約300名の参加があり、多くの人々にスカイスポーツの楽しさを感じてもらいました。 松下雅明

理事からひとこと

副会長 川添 喜郎

長野県高山村で開催されたパラグライダー日本選手権'98の開会式に参加。異常気象の為競技は一本しか成立しませんでした。後半素晴らしいフライトが展開されました。特に最終日、一斉スタートで約90機の選手がたった5分でテイクオフし終えたのは壮観、見事でした。200機位は悠に広げられるT.Oを用意して下さった高山村に感謝。大会準備から実施までたずさわられた長野県連(呉本理事長)、見事な運営手腕を発揮された半谷競技委員長はじめ関係者の皆さん本当にご苦労様でした。全国から集まった選手の皆さんの健闘が来年度の大会で5人目のチャンピオンの誕生につながりますように祈っています。

8月に2回JAAとの交渉に臨みました。まず5日には角田航空業務室長、津田部長にお会いし、FAI関連、懸案事項の円滑な推進のお願いその他の打ち合わせを行いました。25日には本橋事務局長、角田、津田氏にお会いし、「フライヤー登録とJHF普通会員制度の問題」について集中的に交渉を行いました。フライヤー登録制度についての歴史的経過に感謝し、現在進めているJHF総合改革委員会の内容を伝え協力を要請しました。三氏とも理解を示され、諸々複雑な条件と他団体との絡みも含んでいるがJHFに前向きにご協力くださる事となりました。特に3年をかけた完全な制度の移行になるので、「移管」ととらえ、フライヤーに寸分の迷惑がかからぬよう、今後周到に交渉してゆく事となりました。

常任理事 事務局 朝日 和博

先日の夕方、補助動力を付けてハンググライダーでフライトしました。高度200mまでは北の風3m/sで多少大気が対流していました。その上は東の風3m/sで超安定で

ありました。ウインドシェアーの部分(約50m位)は少し荒れていました。40分位空の散歩を楽しんでランディングしたら、自転車でかけつけたオジサンがいろいろ話しかけてきました...

これは免許がいるのですか？

わたしにもできますか？

どこに行ったら教えてくださいませんか？

JHFはこれに答えていく為にあるのだと思いました。

常任理事 総務局長 鈴木 康之

各スクールの皆様、そろそろ秋めいてきましたが、元気で活動されている事と思います。この夏は天候不調、大水やいろいろ思うようにスクール活動ができず、仕上りが遅れている所もあると思います。

これから秋本番。今までの遅れをとりもどし夏のつかれもふっとばして、事故のないよう元気にやっていきましょう。

また全国パラグライディング無料体験会もこれからという各地の都道府県連盟もあることと思いますが、くれぐれもけがの無いように！

常任理事 岩間 雅彦

理事になってから約1年半が経過しました。就任当初に考えていた課題(フライヤー登録、委員会の活性化、電子メディアの活用、タンデム技能証)については、かなりの部分が実現または実現の方向にあります。理事になる前には見えていなかった問題が見えてきたこともあって、組織としてJHFを確立することは容易ではありません。

JHFの業務には、近い将来に実施予定のフライヤー登録、技能証の発行、フライヤーへの情報提供サービス、各種教習・検定会の実施、安全性向上のための活動、競

技の統括、対外的なハング・パラの広報、補助金による各種事業の実施、役所や外部団体との折衝、FAI/CIVLなど国際関係機関との連絡調整などがあります。

これらの業務に対する予算の割り振りは総会の主要な議題ですが、決定した予算がどのように消化されているかという点は、今まであまり重視されてきませんでした。その結果、予算請求も決定も前年ベースによるどんぶり勘定になっていたくらいだと思います。例をあげると、委員会による通知や発送業務が事務局の予算と人員を使って行われていたりします。過去においては、JHFの事務局は関係者が無料で作業を頼める雑務機関であると見なされていた傾向もあります。このあたりを整理しないと、どういう仕事にどれだけ予算を組むべきかということが正確につかめません。幸い、JHFの経理のコンピュータ化がかなり進んだこともあって、技術的には予算の消化状況がかなり早くわかるようになったので、各部門が責任をもってコスト管理を行う態勢を作りたいと思っています。私自身は小さなJHFを志向していますが、そのためにも効率的な組織運営が不可欠です。

理事 関谷 暢人

職業柄、補助動力付きパラグライダー(パワードパラグライダー)の愛好者と情報交換をする機会がある。予想以上に認識の相違と情報不足を痛感した。

聞くところによると「フライトギアは手に入れたが満足なインストラクションを受けていない。また、業界の情報も聞かされず、とどのつまり『何処でも自由に飛べるんだよ』と聞かされ、そうなのかと思っていた。」このような愛好者が各自のモラルを考えフライトするのだが、得てして他グループに迷惑をかけてしまうパターン

になる。このようなケースは本人にも原因があるのだが、その原因を作った部分を改善しなければ同じことが繰り返される。

道具を提供するものはその道具を健全に活用できる情報を道具と一緒に提供しなければならない義務がある。今後のスカイスポーツを健全に発展させるために理解と協力をお願いしたい。

理事 小林 朋子

今年のPG日本選手権は天候に恵まれず不成立に終わってしまいました。昨年に引き続きの不成立なので一層残念です。

JHFホームページの書きこみや修正を一部担当しています。一度は他の担当者が作ったデータを壊してしまい迷惑をかけてしまったりして、作業は緊張します。数人がデータを揃えるのですが、中にはプロもいるので、いろいろな技が盗めて勉強になります。JHFとはなんと学ばせてくれることが多いところだろう、と思いつつ今日もパソコンに向かってます。熱意あるホームページ委員会の活動で、どんどん充実した内容になってくると思います。既に掲載されている内容で間違いや修正がありましたら敏速に対応したいと思いますので、ご連絡ください。

事務局からお願い

技能証申請書について

昨年12月に「新様式の申請書」に変わり、もうすぐ1年になります。以下を確認して、申請に間違いのないようお願いいたします。

1. 申請書は、有効なJHF教員資格をお持ちの方に無料配布しています。
2. 申請書の請求は、専用申し込み用紙を用いて、郵送またはFAXで事務局までお願いいたします。なお、事務局ストックの都合で、1回に各30部以下とさせていただきます。

JHFレポート作りに参加を

JHFレポート10月号は、いかがでしたか。「文字が多くて読む気がしない」という人がいるかもしれませんが、予算の都合でしばらくはこのスタイルです。JHFの会費制度が軌道に乗ったら、ページ数をふやして、写真もたくさん載せて...と考えていますが、それはまだ先の話。

最近、自発的に原稿を送ってくださる方が出てきました。感謝感激!! 原稿、レ

理事 星野 納

熱心なJHFレポートウォッチャーは覚えていると思いますが、今年はじめに全国47都道府県連盟に対して普及事業に関するアンケートを実施しました。内容は「全国体験講習会を平成11年度以降も継続すべきかどうか」というものでした。結論から言うと、アンケート結果は「継続すべき」が大多数でした。では、その資金はというと「JHFが工面しろ」というニュアンスの回答が半数でした。実はこの普及事業は、現在、継続するかしないかの瀬戸際に立っています。過去3年間において、ようやく定着してきた感のある無料体験会を廃止するのは忍びなく思いますが、資金となる日本財団からの援助金320万円が今年度で打ち切りとなります。日本財団もJHFも台所が苦しいのは同じということでしょう。

様々な諸条件を考慮して9月の定例理事会に、平成11年度の新しい実施計画と予算案を提出する予定です。この記事は理事会以前に執筆しているため否決される場合もあり、内容を公開することはできません。資金調達案も同様にお知らせできません。

本年度第1四半期(4月~6月)の体験会実施連盟に対して、補助金の支払いが大幅に遅れたことは申し訳ありませんでした。

3. 申請書は以下の2種です。

技能証申請書(ふじ色): PGのNP、HGのP、補助動力のNP以上の技能証
練習生技能証申請書(みどり色): 練習生技能証すべて

4. 98.8.1.P、98.8.1.練と、用紙の右肩に入っているものが最新版です。

技能証申請の基本になる「技能証規定」については、変更ありません。

「報告書」は従来どおり必要です。1部600円です。

ポートへの意見や提案、文句など、何でもけっこう、どんどんお送りください。限られた人数で頭を寄せ集めてレポートを作るより、多くの人がいりいろな形でレポート作りに参加すれば、ずっといいものができるはずですよ。

原稿等の送付は、JHF事務局内の広報出版局まで、郵送またはFAXで。氏名と住所、電話番号も忘れずに書いてください。お待ち

JHF普及事業の推進は私と鈴木常任理事の二人で取り仕切ってきましたが、両者とも多忙を極め、また、支払い方法について両者の意見が食い違い、今後は鈴木常任理事の判断で支払いを行うことになりました。平成10年度内は、私が従来通り日本財団への書類作成・報告作業のみを引き続きを行い、それ以外のすべては鈴木常任理事の決済に一任されました。

来年度は普及活動の精神を引き継ぎ、新しいシステムの「全国体験講習会」がスタートできるようガンバリマス。

理事 松田 保子

この夏は、日本の半分が雨ばかりのおかしな天気。イベントやスクール等、たいへんだったことでしょう。やれやれですね。

さて、JHFレポートはスタイルを一新してから、なかなか好評。これから、内容をもっと濃くしていかなければ、各県連の活動も詳しく紹介しなければ、と考えています。まずは第一歩として、今月から「県連ニュース」を始めました。このページをふくらませていって、将来はJHFレポートを見れば全国津々浦々の動きがわかるようにしたいと思います。皆さん、ご協力をお願いします!

「住所シール」は、申請書と一緒に送付しています。

*

技能証の申請受け付け、発行などは、旧来の手作業に多くを頼る方法から、時代に適合した合理的な方法に、適宜変更しています。「変更のお知らせ」は、有効な教員資格をお持ちの方には直接しており、またJHFレポートにも掲載します。どうかお見逃しなきよう、今後もお願いたします。

事務局長 横尾和彦

ちしています。

レポート上で意見交換や討論をするページも、近いうちに設けたいと思っています。JHFにいいたいこと、他のフライヤーに意見したいことなど、ぜひ送ってください。ただし、とても個人的な性格を持つものや読むに耐えないものについては、ボツもあり得ますので、予めご了承ください。

広報出版局

JHF 技能証発行数(1998年8月31日現在)		
ハン グ グ ラ イ デ ィ ン グ	P証	4,682
	C証	6,599
	B証	11,083
	A証	10,472
	補助動力証	18
	XC証	1,001
	バラ グ ラ イ デ ィ ン グ	P証
	NP証	7,103
	補助動力NP証	58
	B証	37,377
	補助動力B証	118
	A証	39,608
	補助動力A証	144
	補助動力証	855
	XC証	3,092

JHF ホームページもご覧ください。 <http://jhf.skysports.or.jp/>

JHF レポート 10 月号 (No.141)

発行日 1998年9月20日
発行 (社)日本ハン グ グ ラ イ デ ィ ン グ 連 盟
〒105-0004 東京都港区新橋2-5-6 大村ビル4F
TEL.03-3592-2651 FAX.03-3597-0245

編集 JHF 企画部広報出版局
印刷 日本印刷(株)

この印刷物は再生紙を使用しています。